

# ら。ふ。れ。た。

2021年8月に九州北部をはじめとした日本各地で発生した豪雨により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。コロナ禍での復興は心身ともに負担が大きいかと存じます。被災された皆様が、一日も早く平穏な生活に戻れますようお祈り申し上げます。

## おもてなしのこころ



東京オリンピックの閉会式を終えて今この原稿を書いています。オリンピックの開催の是非論争、選手たちの極限の戦いに感動、一方で新型コロナの再拡大と感染爆発。この夏は良くも悪くも忘れられない夏となりました。

皆さんそれぞれに色々な思いがあることを受け入れる — それが多様性を認める社会だと思っているので、ここでそういった件についての僕の意見は述べません。今号で書きたいのは、組織委員会の実働隊の皆さん、そして医療関係者を含むボランティアの皆さん方への感謝の気持ちです。



国、各機関、委員会のトップの方の発信力は色々問題があったにせよ、この世紀の一大イベントで、組織委員会職員、ボランティア一人ひとりが海外の選手、関係者、メディアの方々に「大会期間中丁寧に親切に、心遣いとおもてなしの精神を持って対応することで、海外の皆さんが日本にとっても好感を抱いて帰られた」という記事を幾つも読みました。観光立国へと舵を切っている日本国の今後にとって、国民自体（市井の人たち？）の信頼残高が随分と積み上がったのではないのでしょうか？

私の愛読誌の「致知」7月号に帝国ホテル社長へのインタビュー記事が出ていました。今年の大河ドラマの主人公渋沢栄一氏が、世界に通用する迎賓館的なホテルが日本にも必要だ、と開業に関わった日本屈指のホテルです。そこに10年前の東日本大震災時の都心の帰宅難民となった皆さんへの従業員の対応の話が出ていました。

自宅へ帰れずに一晩夜を明かすことになった皆さんのためにロビーを提供し、社長が指示する前に従業員一人ひとりが自発的に当たり前のように動き、ブランケットや水、パンなどを皆さんに提供された。そして震災10年を経てなお、当時一宿一飯の恩を感じた皆さんから感謝の手紙が届いている、もちろんそれをきっかけに最

前のホテルにされた方もおられる、そんな話でした。まさに従業員一人ひとりに帝国ホテルのDNAが宿っているのでしょうか。

2つの「おもてなし」の話に共通するのは、【自分の職務（任務）への誇り】と【相手への敬意＝リスペクトする気持ち】だと思います。

当社は社員が12名（来春1名新卒を迎えて13名の予定）の会社です。いつも社員一人ひとりがラプロス代表であり、広報担当であり、営業担当であり…、いくつも職務（任務）を持っているわけです。そしてラプロスの1/12を背負っている、あるいは発信している。規模の小さい会社ほど、そこは比重が大きくなるわけですね。そのことを好機と捉えて、自ら主体的に考え行動し、また「同じ絵を見て」（ラグビーワールドカップ日本代表のジェイミー・ジョセフヘッドコーチの言葉）ラプロスの目指す方向を思い描きながら進んでいくことが大切であり、そうあることを願い続け、言い続けること — それが社長としての僕の役割だと。

ラプロスの企業理念の中で3つの行動規範のうち、  
◇アクション 『YES』から始める卓越した『行動力』  
◇パートナーシップ 『機会』と『縁』を大切にしたい永いお付き合いという2つがあります。

僕にとって、東京オリンピックはラプロスの方向性を再認識する良い機会となりました。

3年後のパリ五輪も健やかな気持ちで迎えられるよう、コロナ収束までもうひと踏ん張り、皆さん一緒に逃げ切りましょう！



代表取締役 樋口 繁樹

2021年  
9月号  
vol.80

発行：株式会社ラプロス  
発行人：代表取締役 樋口 繁樹  
〒810-0001  
福岡市中央区天神1丁目12番1号  
日之出福岡ビル5階  
TEL092-737-2211  
FAX092-737-2212  
弊社のHPは下記URLよりご覧いただけます。  
<http://www.lapros.co.jp/>  
編集担当：渡辺、中村、藤吉

引き続き、手洗い

・うがい・消毒  
頑張りましょう！



## SDGs

～今、私たちにできること～

文：樋口 恵子

『SDGs』（現代に暮らす私たちの周りにある、貧困や社会格差、環境破壊による異常気象など、さまざまな問題の解決を目指す取り組み17色のカラーホイールマークがわかりやすいですね）について考える機会が多くなりました。

私たちの会社としても早急な課題として取り組んで行かなければなりません、個人として何ができるか考えることが多くなりました。

いきなり堅苦しい文面ですみません・・・

誰しもが経験・想像もしたことの無い日々を過ごすことになったこのコロナ禍ですが、私にとって今までの暮らし方を見直す時間を持つことができました。

きっかけとなったのはコロナ禍初期の頃の「マスク」「トイレットペーパー」不足でした。高騰・品薄の言葉が不安心へと買い込みへと追い込まれ、随分と買い込んだものです。冷静さを失っていた自分が恥ずかしいです・・・



その時期を境にこれからの暮らし方はどうなるんだろう？と考えることが多くなりました。同時にSDGsへの取り組みがうっすらと私の中で意識付けされ始めました。社会の一人として深く学ぶ必要はあるのですが、まずは『できることからやってみて知らな

いことはその時その時で知ればいいのか』と肩に力を入れず始めることにしました。

今回は私のSDGs（17項目を全然満たしていませんが・・・(笑)）を書かせていただきます。少しでもお付き合い下さい。

あくまでも個人のレベルでの見解です・・・

①量や物にこだわってみる。自然に優しい？ここからです。

②買う・食べる・適切な量？これはどんな物？応援して自分も楽しむ！

買いだめをしない。食材などは料理無料アプリなどを活用して、使い切りを目指す。（新メニューが食卓に上がります！最近のおすすめはパンの耳を使ってお漬物！）

献立を1週間で立て食材の適量目安をつけておく。（食いしん坊の夫が毎週献立を考えてくれますので助かっています(笑)）

◆2次目標：食材はできれば産地産直。産直商品などで日本の農畜水産産業を応援する。

旬のものを頂けるメリットは体にとってもいいことです！同じ食材が多少続いてもアプリでレシピを検索。発見もありで楽しいです。

◆3次目標：『フェアトレード』『MSC認証（海のエコラベル）など環境・公正な取引により途上国に暮らす人たちの自立支援をされた商品。

義務教育やワクチンなど、当たり前が当たり前でない国の子供たちや発展途上の国々で頑張る方々に少しでもお役に立てるならば・・・小さな支援への

意識改善です。

③自然に優しい？かどうか・・・

身近なこととして自分の子供やまたその子供たち、生物・植物が本来あるべき姿で生きていけるのか、想像してみるように。

毎年猛暑と言われ豪雨など異常気象。ダウンコート未使用の冬。秋刀魚もいまや高級魚となるなど・・・

●電気のつけっぱなしはしない。（これ、結構課題です・・・）

●食器洗いは食洗機を利用する。

（時間・水量・コストも削減 ※但し量や人数により変わります。）

●天然由来の材料の洗剤剤を使用するなど・・・

●家で洗える素材の服にする。

●3R（リデュース（無駄なごみを減らす）・リユース（ゴミにせず繰り返し）・リサイクル（再度資源に作り直すこと）。



環境については、快適な生活を覚悟して放棄しないといけないことが多いと思います。神経を張り詰めて行すべきではなく、まずはできるを知ることから始まりだと思っています。自然に行動できるようになる日が来ることを目標として、身近なところからのSDGsをキーワードに継続していきたいと思っています。

